

「この街」のために。「あなた」のために。

そうこう[®]

S O U K O U

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111

2018年11月号(月刊) 発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



巻頭特集：小児科 冬のウイルス感染予防
特集：小児循環器外来のご案内

11月

2018 / vol.045

小児科

●診療体制の紹介
●冬のウイルス感染症予防



小児科部長 小和瀬 貴律

《行田総合病院小児科の体制について》

地域の小児一次～二次医療を担う当院小児科の主な機能は、①外来診療、②入院診療、③埼玉北部地区の小児夜間救急当番制度への参加です。一般外来診療、乳児健診、予防接種、当院で対応可能な短期から長期のフォローアップが必要な疾患の患者さまの診療、学校心臓検診や3歳児検尿、あるいは学校検尿での精査が必要な患者さまの診療、他の医療機関からの御紹介患者さまの診療、救急要請によって救急車にて来院なさる患者さまの診療、より高次の小児医療が必要な患者さまの埼玉県立小児医療センターや埼玉医科大学総合医療センターへの転院・搬送など多岐に渡っています。

平成30年度は、常勤医師3名、定期的に外来を担当してくださる非常勤医師3名の体制です。一般外来診療に加えて、昨年度から継続して、毎週月曜日と木曜日の午後小児内分泌を専門とする私(小和瀬)によるフォローアップ外来を設けており、短期から長期のフォローアップが必要な疾患の患者さまの診療充実を図っています。5月からは常勤医師として小児科の中でも特に小児循環器疾患を専門とする藤本医師が勤務しており、毎週水曜日午後小児循環器外来を開設しています。5月の開設以降、心雑音、不整脈、学校心臓検診等での心電図異常、胸痛、運動後の胸部違和感、川崎病疑い、漏斗胸、起立性調節障害といった疾患の患者さまが受診なさって

おり、好評を博しています。加えて、小児神経を専門とする山口医師が原則第2・4土曜日午前中にてんかんなどの痙攣性疾患を中心とした診療を担当しております。更に、毎週水曜日午前・午後小児内分泌が専門の大戸医師、および毎週木曜日午前には小児内分泌・代謝を専門とする大竹医師が診療を担当しております。以上のように、当院小児科では、一般外来診療に加えて、より専門性の高い診療を提供しています。入院診療に関しては、主に急性肺炎、急性気管支炎、気管支喘息、急性胃腸炎、熱性けいれん、薬物誤飲等の数日から1週間程度での退院が可能が予想される疾患の患者さまが当院入院対象となっております。小児科のため

の入院ベッドは原則個室で数床程度準備しています。

埼玉北部地区の小児夜間救急当番制度への参加に関しては、当院小児科では毎週月曜日と金曜日、第2・4土曜日に小児夜間救急当番を担当しております。

加えて、日曜日・祝日の9時～12時30分、14時30分～17時30分(受付時間)は、非常勤小児科医師による外来診療サービスも提供しています。

今後も地域の小児一次～二次医療を担う小児科としての機能維持・充実にめざし、より良いサービス提供ができるよう尽力して参りたいと考えています。

《冬期に罹患しやすい

小児のウイルス感染症の予防について》

小児において冬期に呼吸器症状を生じやすい代表的なウイルスとして、ライノウイルス、パラインフルエンザウイルス、RSウイルス、ヒト・メタニューモウイルスなどが知られています。また、いわゆるかぜとは別の疾患として考えられているインフルエンザウイルスによる感染症もあります。これらのウイルスの主な伝播経路は、飛沫感染(咳、くしゃみによって病原体を含んだ体液が接触することによる伝播)と接触感染(病原体への

直接的伝播、あるいは、おもちゃなどを介しての間接的伝播)です。

おなかのかぜといわれることもある冬期に多い小児のウイルス性胃腸炎の原因となるロタウイルスやノロウイルスの場合は、糞口感染(便に排出されたウイルスが、手などを介して口から入り感染する)が主な伝播経路です。このようにして私たちの体内に病原体が付着して体の中に侵入し、気道や腸管といった増殖できる場所まで運ばれて定着し、増殖して感染が成立します。そこで、今回は主に予防についてお話いたします。



● PROFILE

- 2007年3月 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業
- 2007年4月 東京慈恵会医科大学附属柏病院 研修医
- 2009年4月 東京慈恵会医科大学附属柏病院 小児科医
- 2010年4月 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 小児科医
- 2011年4月 東京慈恵会医科大学附属病院 小児循環器医
- 2012年4月 埼玉県立小児医療センター 循環器科
- 2014年4月 東京慈恵会医科大学付属病院 小児循環器医
- 2015年4月 東京慈恵会医科大学付属病院 細胞生理学講座 大学院生
- 2018年5月 行田総合病院 小児科医

● 手洗い

接触感染で大きな役割を果たすのは「手」です。例えばウイルスに感染した方が鼻汁を処理したりする際にウイルスが手に付着する可能性があります。ウイルスが付着した手でおもちゃや手すりなどに触れ、そこに別の方が触れたりすればウイルスが伝播する可能性があります。人にうつさないために、また、うつされないために手洗いは大変重要です。

具体的な手洗いの方法としては、流水で洗い流す、液体石けんの使用、速乾性擦式消毒用アルコール製剤の使用があります。目に見える汚れは流水、液体石けんの使用が適していますが、目に見えない汚れ（ウイルスは目に見えませんが）には速乾性擦式消毒用アルコール製剤の消毒効果が高いとされています。

● うがい

ウイルスは、主に手を介して口の中に運ばれたり、ウイルス感染者より飛散したウイルスを呼吸により鼻腔内や口腔内に吸い込むことにより運ばれます。そこで、運ばれてきたウイルスを少しでも排除するためにうがいは有効と考えられています。

具体的には水道水やうがい薬を使用します。ただし、殺菌消毒用うがい薬の中で、ヨウ素が含まれているものは、甲状腺疾患の方やその既往歴のある方、ヨウ素アレルギーの方、妊婦の方（胎児に影響が生じる場合があります）などは、使用を控えることが望ましいと考えられます。

● 部屋の換気と湿度

もし、家庭内にウイルス感染症の方がいらっしゃる場合、換気不十分な部屋での長時間滞在は、健康な方がウイルスに接触する可能性を高めます。一日数回は室内の空気入れ替えを実施し、室内のウイルス量を減少させることが大切であると考えられます。

● 部屋の湿度

一般的にはウイルスの多くは低温・低湿度で長期生存することが知られています。カビやダニの繁殖も考慮した場合、適切な室温は22℃から25℃、湿度は50〜60%が良いと考えられています。

● マスク

市販のマスクの孔はウイルス粒子より大きいいため、ウイルスは通過できることとなりますが、実際には、多くのウイルスは分泌物とともに咳やくしゃみで飛散します。大きな分泌物はマスクの孔を通過できないため、飛沫感染をある程度防ぐことが期待できます。さらに、マスクの着用により直接手で鼻や口に接触する機会が減少することも期待され、接触感染軽減に役立つと考えられます。ただし、小さなお子さんの場合、マスクを正しく装着せずに顎の下におろしたり、また上げたりして口や鼻の周囲を手で触れてしまう機会が増え、かえって汚染されてしまう可能性がありますので注意が必要です。

以上のような予防策を実施していただくことにより、

小児循環器外来の「案内」

《「挨拶」》

患者さま、ならびに病院職員の皆様、2018年度より行田総合病院小児科で勤務をさせていただいている藤本義隆と申します。よろしくお願致します。私事ではあります、簡単に自己紹介をさせていただいた後に、当院の小児循環器外来に関してご案内をさせていただきたいと思っております。

私は埼玉県草加市に生まれ、浦和市（現さいたま市）で育ちました。幼稚園、小学校、中学校は浦和市内へ通学し、東京都内の高校へ進みました。小学校では空手を習い、初段を取得しました。中学校と大学ではテニスに打ち込み、部長を務めました。現在も時折テニスを行い、健康維持に努めています。幼い頃の私は、運動が大好きであったため勉強を全くしない子だったそうです。

小さい頃から医療系ドラマが好きであったので、小学校の時に『ER（救急救命室）』が大好きで毎週見ていました。このドラマには、小児救急専門医として若かりしジョージ・クルーニーが出演していました。この医師は、私生活はだらしないのですが、仕事に向かう姿勢と能力が大変優れているというギャップがあり、私はこの小児科医像に憧れを抱いておりました。その影響もあり、高校進学後は医学部を目指しました。更に、医学部を卒業し、専門科を選択する時にジョージ・クルーニーを目指し、小児循環器科を選択するに至りました。

実際に小児科医になってからは、最初に中規模病院で

少しでも感染症に罹患する機会を減少させることができれば、元気に冬を過ごすことにつながるのではないかと思われます。なお、どんなに頑張っても予防策を講じても罹患してしまう場合もあると考えられます。

高熱が続く、水分がとれない、何度も吐いてしまう、下痢がひどい、咳がひどくなってきて眠れない、顔色が優れない、けいれん、意識障害があるなど、心配な症状がみられたり、症状が悪化していくような場合には、速やかに医療機関への受診を是非ご考慮願います。



行田クリニック 小児科外来担当表

	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	B館12診	藤本医師	森田医師	大戸医師	大竹医師	森田医師	藤本医師 隔週
	B館11診	小和瀬医師		小和瀬医師 負荷試験		小和瀬医師	山口医師 隔週
午後	B館12診	森田医師	藤本医師	大戸医師	森田医師	藤本医師	
	B館11診	小和瀬医師 フォローアップ外来		藤本医師 小児循環器外来	小和瀬医師 フォローアップ外来		

※乳児検診・予防接種（要予約）／診療時間（月～金）14:00～15:00

小児科

藤本 義隆

一般小児疾患（胃腸炎、肺炎、川崎病、てんかん、膠原病、血液疾患、新生児など）を4年間経験しました。その後、三次医療機関（大病院、小児専門病院）で小児循環器疾患（先天性心疾患、不整脈、学校心臓検診、集中治療室、心肺停止患者など）や新生児集中治療室を4年間経験しました。さらに、この経験から得た疑問を解決したいと思い、大学院へ進み小児循環器領域疾患の研究を3年間行い、医学博士号を獲得致しました。こうした経験の間にも、週1回から2回は夜間救急や遠方のクリニック（新潟、静岡、茨城、福島など）での外来診療を行ってきました。医学の発展には基礎研究は非常に重要なことではありますが、患者さまと直接向かい合う医療を生涯続けていきたいと考え、大学院卒業後は外来診療を行う道を選択しました。

私は小児科医になった時から、「最終的に生まれ育った埼玉県で小児科医として貢献したい」という思いがあり、この度行田総合病院で勤務させていただくことになりました。

NEWS & TOPICS

2018.9-2018.10

第9回 埼玉県北部肝胆膵癌懇話会 新南棟 4F 会議室



当院外科部長 川原林医師



深谷赤十字病院外科部長
新田医師



熊谷総合病院外科部長
北医師



当院外科
松平医師

2018年10月4日(木)

当院消化器外科・松平医師が症例提示を行いました。

今回で8回目を迎える『埼玉県北部肝胆膵癌懇話会』が当院の会議室で開催されました。埼玉北部エリアでの肝胆膵がん治療をより発展的なものにするために、今回は3名の外科医が症例を提示。参加された医療関係者との活発な検討が行われたほか、「毎回この懇話会では非常にためになる話を聞くことができ、感謝しています」等のお言葉を頂戴しました。

リハ科 移乗研修 リハビリテーションセンター



2018年9月22日(土)

毎年恒例の新人対象研修

チームごとに症例像を設定し、必要なアイテムを準備して、まずは患者役に扮したリーダーに対して新人スタッフが起居・移乗を行います。その後、先輩スタッフからの助言と手本を見せてもらいながら、技術の習得を図りました。

ふるさとチョイス ふるさと納税の返礼で検査を。



2018年10月23日(火)

行田市へのふるさと納税の返礼で

当院にて人間ドック・脳ドック、がんや脳梗塞などのリスクスクリーニング(血液検査)などが受けられるようになりました。詳細は『ふるさとチョイス』『ふるまる』のWEBサイトでご確認ください。

第6回 肝臓病教室 新南棟 1F ロビー



2018年10月19日(金)

市民公開講座 第6回肝臓病教室『B型肝炎 99%』

毎回ご好評をいただいている肝臓病教室。第6回目となる今回は『B型肝炎』をテーマに当院の消化器内科医師、薬剤師、臨床検査技師、リハビリセラピスト、地域医療連携室スタッフによる「正しい知識と治療法」「発症を抑えるための薬の正しい投与」「検査方法」「肝臓を良くする運動」「給付金」などについての講義が行われました。約30名の市民の皆様が参加。うち20名の方にB型肝炎即日検査を受けていただきました。

小児科 新体制!



●専門医

日本小児科学会：小児科専門医

日本小児循環器学会：小児循環器専門医

日本周産期・新生児医学会：新生児蘇生法(NCPR)修了

日本 ACLS 協会：小児二次救命処置(PALS)修了

《小児循環器外来のご案内》

小児循環器外来では、こどもの心血管系に関わる疾患を診察しています。具体的には先天性心疾患、小児不整脈、川崎病、心筋炎/心筋症、起立性調節障害などの疾患です。心雑音やチアノーゼなどの先天性心疾患を疑う症状、学校二次検診の精密検査、胸痛や立ち眩みなどの症状でお困りの際は、予約後に受診していただければと思います。

当院では、レントゲン検査、採血検査、心臓超音波検

査、ホルター心電図検査、運動負荷心電図検査、起立試験など、心臓に関わる一通りの検査を行うことができます。心臓は非常に複雑な臓器であり、その疾患は多岐に渡ります。そのため、患児とご家族にしっかりと理解していただくために、通常の外来よりも時間をかけて丁寧に説明させていただきます。

循環器外来に限らず、通常の外来診療においても、気軽にどんなことでも相談できる外来を目指しております。お子様のごことで、困っていることや分からないこと

があれば、何でもお気軽にご相談ください。私自身も二児のパパとして子育て勉強中ですが、拙い経験から誠意お答え致します。また、当院には経験豊富な看護師および保育士も常在していますので、医師に相談しづらい場合は申し出てください。小児科外来を通じて、みなさんが楽しく快適な子育てライフを送るお手伝いをさせていただきます。



ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。



【Illustration】足がだるい重い.biz

◎「下肢の血管専門外来」／血管外科からのお知らせ ところで、『足のむくみ』が気になっていませんか？

一過性ではなく数日間『足のむくみ』が続くような場合には病気の可能性があります。

- ・足がだるい
- ・足の血管がポコポコと浮き出ている
- ・夕方になると足がむくむ
- ・夜間に足がつりやすい

このような症状を少しでも感じたら受付窓口にご相談ください。

血管外科医による診察を行っております。

【行田総合病院「下肢の血管専門外来」／血管外科】

◎女性排尿機能外来／泌尿器科からのお知らせ 尿失禁に関してお悩みの方へ。

「おしっこが出にくい」「回数が多い」「漏れる」などなど...。
尿失禁に関してお悩みを抱えてる方は、ぜひ当院の女性排尿機能外来を受診してください。

埼玉医科大学病院泌尿器科の朝倉教授による専門外来です。

●毎月第2・第4水曜日の午後に診察を行っています。

【行田総合病院「女性排尿機能外来」／泌尿器科】



それまで何もなかったのに、突然トイレに行きたくなり、がまんが難しい症状。

日中8回以上トイレに行く症状。夜に1回以上トイレに起きる症状。

急におしっこがしたくなり、トイレまでがまんできず、もれてしまう症状。

◎頭痛外来／脳神経外科からのお知らせ

毎週火曜日の午前中に頭痛外来を行っています。

●誰もが経験のある頭痛。

『頭痛くらいで...』と思わないで、一度「頭痛外来」を受診してみてください。



まずはあなたの頭痛が「他の病気が引き起こしている頭痛」なのか「多くの人を悩ませている慢性頭痛」なのかを問診・診察・検査を通して判断します。

●「他の病気が引き起こしている頭痛」の場合

その原因となっている病気を治すことが治療の目的となります(例: 風邪、発熱などのほか、稀にくも膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、髄膜炎など、危険な病気も含まれます)。

●「多くの人を悩ませている慢性頭痛」の場合

治療目的はその頭痛自体をコントロールする事が重要となります(例: 偏頭痛、緊張型頭痛、群発性頭痛など)。

頭痛外来では、頭痛全般について診断を行い、病状によっては適切な診療科を紹介させていただきます。

【行田総合病院「頭痛外来」／脳神経外科】